

## 施工説明書

# 手洗器

(Y)L-35

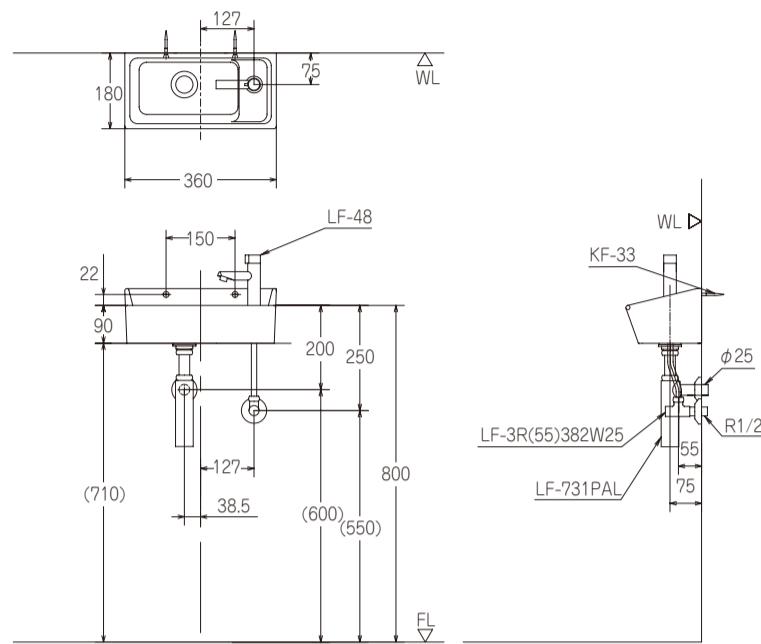
商品の機能が100%発揮されるよう、  
本説明書の内容を十分ご理解のうえ  
正しく施工してください。  
なお施工完了後、この説明書をお客  
さまにお渡しください。

## ●施工完了図

## 〔ボトルトラップ仕様の場合〕

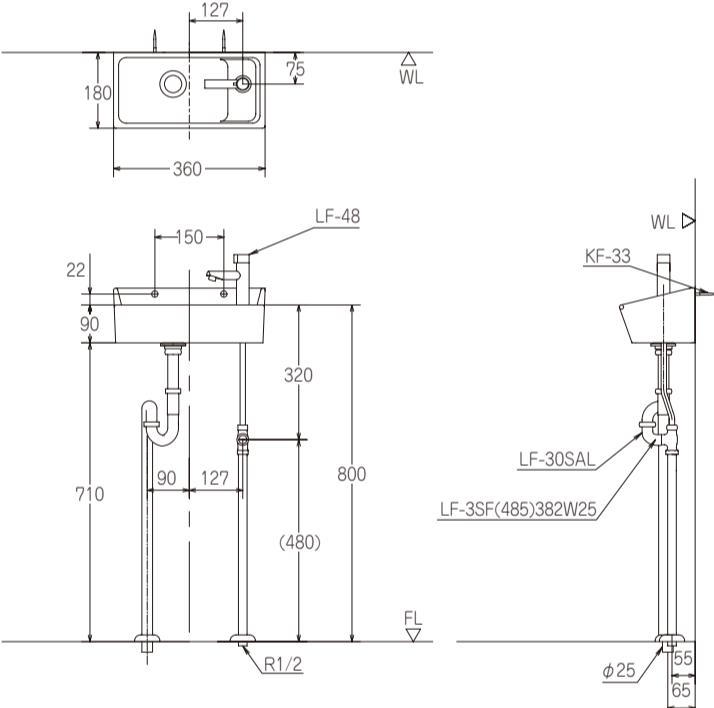
※水栓金具、排水金具、木ビス(AYボルト)等は  
別途手配になります。

※水栓の取り付けは水栓施工説を見てください。



\* ( )内寸法は、手洗器あふれ縁高さ(800)を基準にした参考寸法。

## 〔Sトラップ仕様の場合〕



\* ( )内寸法は、手洗器あふれ縁高さ(800)を基準にした参考寸法。

## ●安全上のご注意

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工終了後、正常に作動することを確認するとともに、お客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- この施工説明書は、お客様まで保管頂くよう依頼してください。

### 用語の説明

**注意** 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」

## ！注意

施工前に輸送中の破損がないことを確かめる。

施工後に施工段階での破損がないことを確かめる。

※破損部でケガをしたり、漏水により家財等を濡らす恐れがあります。

陶器に対するねじは締めすぎない。

※陶器が割れてケガをする恐れがあります。

施工後に漏水検査を必ず行う。

※漏水により家財等を濡らす恐れがあります。

陶器に熱湯を注がない。

※陶器が破損してケガをしたり、漏水のため家財を汚す原因になることがあります。

陶器に硬いものを落とさない。

※陶器が破損してケガをしたり、水漏れのため家財を濡らす原因になることがあります。

陶器にひびが入ったり、割れた場合、破損部には素手で触らない。

※破損部でケガをする恐れがあります。

陶器にひびが入ったままで使用しない。

※破損部でケガをする恐れがあります。

## ●施工前のご注意

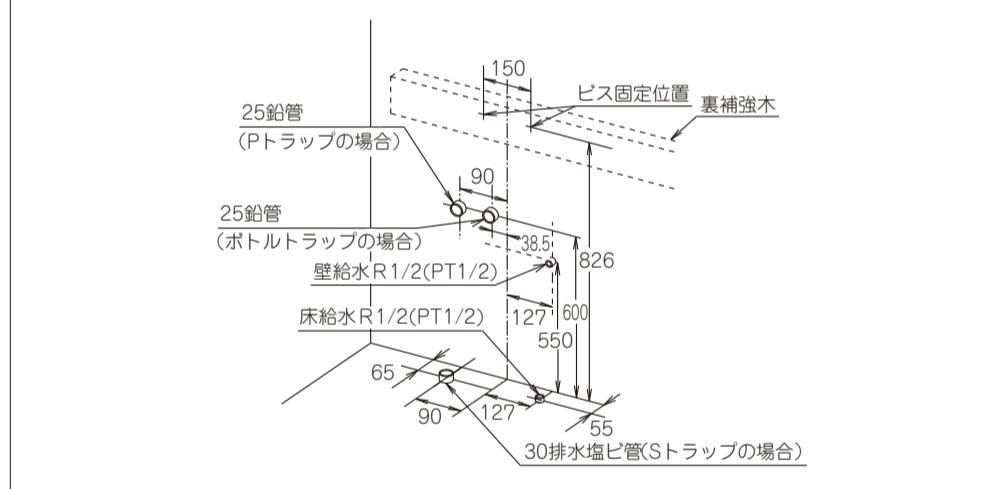
- 商品の表面には、直接工具を掛けないでください。

工具をかける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。

- 施工の際には商品の表面にキズを付けないように十分注意してください。

## ●施工方法

## 1. 下準備



- 給水ソケット、25鉛管(30排水塩ビ管)は、仕上面と一致するように取り出します。
- 強度確保のため、次のような補強をします。

## 〔木造壁の場合〕

補強板厚み12mm以上になるように、補強木を設けてください。

※補強木は構造体との固定を行ってください。

## 〔コンクリート壁の場合〕

取付部の奥行は75mm以上(コンクリート厚40mm以上)を確保してください。

※AYボルト(AY-44)は別途用意ください。

## 2. 配管内の清掃

手洗器を取付ける前に必ず配管内のごみ、砂等を完全に洗い流します。

※給水管の防露対策は必要に応じて現場で行ってください。

### 3. 手洗器の取付け

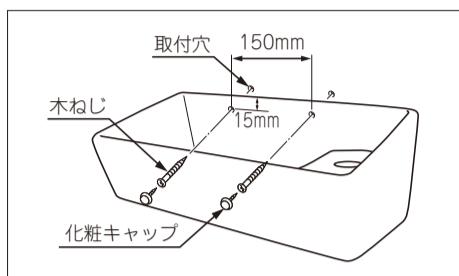
※施工後の補修を容易にするために、手洗器をモルタルで埋戻したり、接着剤で固定したりしないでください。

※木造壁の場合、KF-33用の下穴（Φ4、深さ60mm）を開けてください。

※コンクリート壁の場合、AYボルト（AY-44）用下穴（Φ11、深さ60mm）を開けてください。

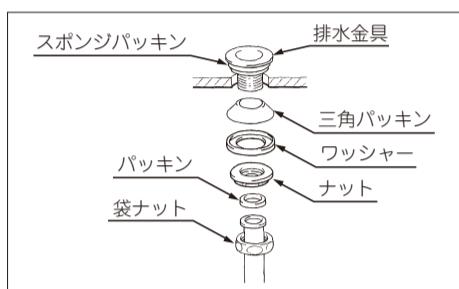
(1)手洗器を仮据えし上部を押え、手洗器の水平を確認したのち、上部の取付穴の位置をけがき下穴をあけ、その後木ねじで固定します。

※コンクリート壁の場合、AYボルト（AY-44）用下穴（Φ11、深さ60mm）を開けてください。



### 4. 排水金具の取付け

手洗器に排水金具本体を取り付けます。



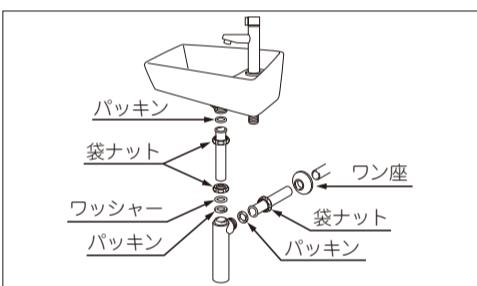
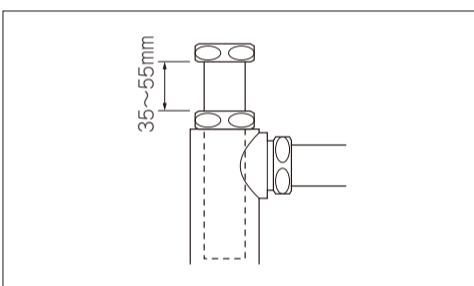
### 5. 排水管の接続

排水管の接続を行います。

#### [ボトルトラップの場合]

※トラップ直管は、絶対に切らないでください。

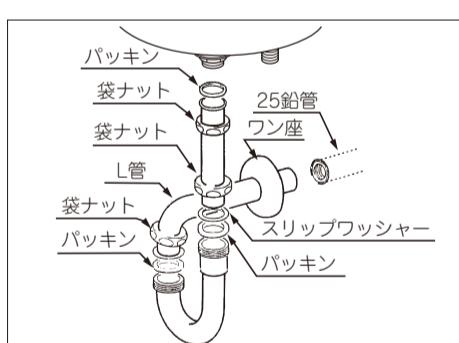
※下図の寸法が35~55mmになっていることを必ず確認してください。



#### [Pトラップの場合]

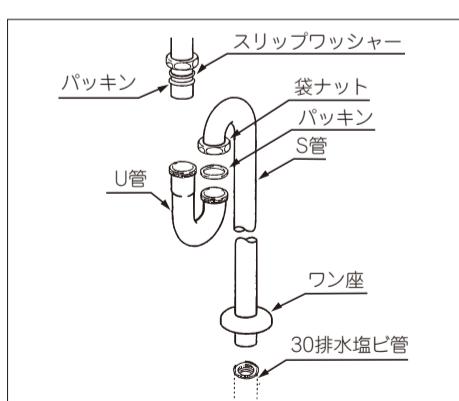
※排水トラップを仮付けして、差込しろとして約30mm残してください。

※25鉛管との接続はハンダ付けしてください。



#### [Sトラップの場合]

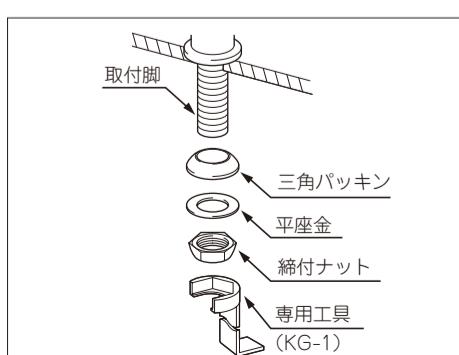
※30排水塩ビ管との接続はシール材で充てんしてください。



### 6. 水栓本体の取付け

(1)水栓を手洗器の取付穴に取り付けます。締付ナット、平座金、三角パッキンを取り外し、取付脚を取り付穴に挿入し、締付ナットで本体をしっかりと固定します。

※別売の専用工具（KG-1）を使用してください。



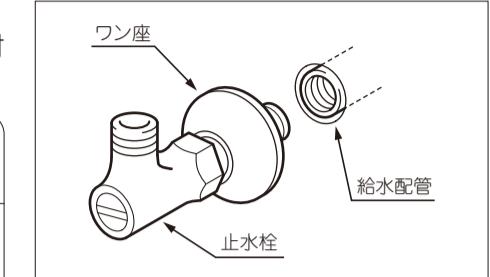
### 7. 止水栓の取付け

(1)壁面の給水配管に止水栓を取付けます。

※ねじ部にシールテープ等のシール材を巻き付けてねじ込んでください。

#### 注意

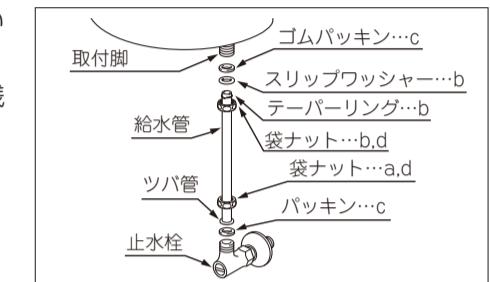
止水栓が上下に5mm以上動く場合は動かないように止水栓を固定してください。



### 8. 給水管の接続

※給水管のツバ部は絶対に切断しないでください。

※給水管の差込しろを約15~20mm残して切断してください。



a 給水管に止水栓側の袋ナットを通しておきます。

b 図のように取付脚側の袋ナット、テーパーリング、スリップワッシャー（金属）、パッキンを給水管に通し、取付脚に差し込みます。

c 給水管を取付脚に差し込んだ後、止水栓と給水管ツバ部の間にパッキンをはめ込み、止水側の袋ナットを締め付けてください。

d 取付脚側の袋ナットを締め付けてください。

#### 注意

●止水栓・取付脚の袋ナットは締付トルク10~15N·m(100~150kgf·cm)で締め付けてください。

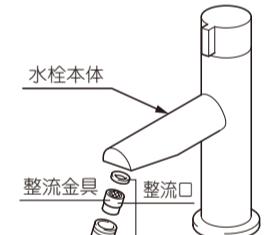
※締め付けが不十分ですと漏水の原因となります。



### 9. 漏水の有無の確認および取付後の掃除

●通水し、接続部から水漏れのないことを確認します。

●手で整流口を取り外し、水を流し、配管内を洗った上で整流金具を掃除します。



### ●施工後の調節

#### [水栓金具の場合]

使用時に水が飛散しない程度に止水栓で流量を調節してください。

#### ●引渡前の確認

引渡前の調節および故障時の点検は次の要領で行ってください。

※点検箇所は下図を参照してください。

#### ●故障と点検

現象	点検内容	点検箇所	処置
流量が多すぎる	止水栓が全開ではないか？ 止水栓は十分開いているか？	① ①	止水栓で流量を絞る 止水栓を十分開ける
流量が少なすぎる	整流口にゴミ詰まりはないか？ 圧力は十分か？ 配管途中に大きな抵抗はないか？	② — —	ゴミ等を水で洗い流す 「使用条件」の項参照 抵抗となる障害物を取り除く
水が出ない	止水栓は十分開いているか？ ゴミ詰みはないか？	① ②	止水栓を十分開ける ゴミ等を水で洗い流す
吐水状態が乱れる	整流口にゴミ詰まりはないか？	②	ゴミ等を水で洗い流す

